

Title	情報財の収益モデル - デジタル化・ネットワーク化されたメディア環境における音楽情報財の収益モデル -
Sub Title	
Author	服部基宏(Hatsutori, Motohiro) 國領二郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1708号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1708">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1708</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	国領二郎研究会	学籍番号	80028674	氏名	服部基宏
<p>(論文題名)</p> <p>情報財の収益モデル          —デジタル化・ネットワーク化されたメディア環境における音楽情報財の収益モデル—</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>本研究は、メディア環境のデジタル化・ネットワーク化によって、音楽情報財の収益モデルがどのような変容を受けるのかという問題意識から出発し、その将来像を、収益モデルの種類とそれを支える消費者像を明らかにすることにより、探ろうとするものである。</p> <p>メディアの変遷による情報財の取引の多様性と、情報財の創作者・伝達者にとっての取引形態や権利の運用に着目した収益モデルの分析を行った。それらを踏まえた研究のアプローチとしては、音楽産業で実際に起こっている事例の研究と、消費者へのアンケート調査により、筆者の仮説を意味解釈また統計帰納的に実証を行った。</p> <p>本研究を通じて得られたものは、デジタル化・ネットワーク化されたメディア環境において、情報財の収益モデルを「権利の運用管理（統合的—分散的）」そして「取引形態（市場—非市場）」という二つの軸によって分類することの有用さと、それによる多様な情報財の収益モデルのありかたの示唆、そしてその母体となる多様な消費者クラスターの確認であった。</p> <p>具体的な収益モデルの種類としては、デジタル化・ネットワーク化されたメディア環境の特長を利用し、情報の自由な利用を認めながらも著作権者人格権に依拠することで物財やサービスで収益を上げるモデル（「無償著作物モデル」）、そして、社会的関係によって収益を確保するモデル（「互酬モデル」）の可能性を指摘した。また、新しいメディア環境においても CD などのパッケージメディアによる収益モデル（「有償著作物モデル」）は存続するという視点を示した。</p>					